邦楽現代

第十四号　一九八二年秋

日本音楽集団

特別座談会　今日から明日へ――不況の中の現代邦楽運動――1
日本音楽集団第九次海外公演の報告と記録　藤崎重康――9
歌楽帖⑨　アウシュヴィッツの兎　三木稔――11
芸術祭コンサート〈鳳凰三連〉――14
日本音楽集団一九八二年度後期定期コンサート・シリーズ・プログラム――16
二十絃箏ヨーロッパ・リサイタル・ツアー　ヨーロッパで考えたこと　野坂恵子――22
ほうげん抄――24

カメラータ・レコードは、
三木＝野坂、及び七一年以降の三木＝日本音楽集団の
すべてをレコード化、紹介につくして来ました。

めばえ/三木稔作品選集 Vol.1

香り、色、そして音がたがいに照応し合って、あの詩行そのままの世界が……。

三木稔：
ダンス・コンセルタント第1番"四季"、めばえ、竜田の曲、奔手、夕影の詩

野坂恵子(箏・二十絃箏)　宮田耕八朗(尺八)　杉浦弘和(三絃)
日本音楽集団
●CMT-1001 ¥2,500

野坂恵子・三木稔/「二十絃箏の世界」

ここには、もはや音楽における境界など存在しない。選びぬかれた10曲から紡ぎ出す野坂恵子二十絃箏の響から湧きあがる目もあざやかな色彩をもった響音たち。

三木稔：
暁の曲（箏とオーケストラのための協奏曲）、序曲と「春鶯囀」（オペラ「春琴抄」より）、ひなぶり、東から（カメラータ・レコード委嘱）、白樺、まぼろしの米、箏譚詩集第二集、天如、佐保の曲、竜田の曲

野坂恵子(二十絃箏)　セヴェリーノ・ガッゼローニ(フルート)
徳永二男(ヴァイオリン)　伊藤悠一(語り)　山岡重信(指揮)
東京フィルハーモニー交響楽団　群馬交響楽団
●CMT-1015～8(4枚組)¥10,000

「巨火」「わ」/三木稔作品選集 Vol.2

「燃える邦楽器」を現出した、鬼才三木稔と日本音楽集団の臨界点！"巨火"の天地を揺がす打楽器群の圧倒的な迫力、"わ"の妙しいアドリブの競演。

三木稔：巨火、わ

井上道義(指揮―巨火のみ)　日本音楽集団
●CMT-1041 ¥2,500

野坂恵子/二十絃箏の世界II

バッハ、ブルースそして最近作までの多彩な選曲。野坂恵子＝二十絃箏の深奥を刻明に捉えています。

J.S.バッハ：カヴォット、サラバンド
池辺晋一郎：紡ぐ、N.マカイ：ワールズ
三木稔：めばえ、秋の曲
三木稔・野坂恵子(編)：グリーンスリーヴス

野坂恵子(二十絃箏)　坂田誠山(尺八)
●CMT-1048 ¥2,500(デジタル録音)

野坂恵子・三木稔/二十絃箏の世界III「鎮魂協奏曲」(コンチェルト・レクイエム)

これは永いレクイエムの歴史のなかでも、明らかにエポックとして不滅であろう。三木の透徹した感性から織り出される死者の安息への祈り。これは同時に各ジャンルの危険な境界線に咲く奇跡の花でもあるのです。

三木稔：鎮魂協奏曲(コンチェルト・レクイエム)箏譚詩集第一集、華やぎ

野坂恵子(二十絃箏独奏)
日本音楽集団、田村拓男(指揮)
●CMT-1070 ¥2,500(デジタル録音)

予告／来春発売

「ベロ出しチョンマ」「八郎物語」

語い語りと器楽の新様式
三木稔の歌楽レコード初登場

Camerata
発売元：カメラータ・トウキョウ
〒150 東京・渋谷区神宮前4-26-32吉田マンション3F
☎03(405)6081

●特別座談会

今日から明日へ——不況の中の現代邦楽運動

長沢勝俊・三木稔・田村拓男・坂田誠山・奈良義寛・中島隆・米澤浩

三木　この「邦楽現代」は七六年春の創刊以来十四号を迎えたわけです。日本音楽集団の機関誌でありますが、いわゆる現代邦楽分野での専門誌が他にないので、できるだけ公的な性格をもたせる努力をしてきました。

集団のような演奏活動を維持することの自体、極めて困難であることはこの道の常識なのですが、世界的に音楽界が不況になったここ数年でもあり、先行きも考えて集団も運営基盤を強くしなければということで、先日経営の現状分析が行われました。その結果相当の赤字を毎回出しているものの一つとして、遺憾ながらこの機関誌も見直しの対象となったわけです。とりあえず今号は特別号として頁数をおさえねばなりません。

それで、今回でなければ時期を失するものは別として、一回抜けてもいいもの、費用を要するものは先送りとし、評論家の方々に半年毎に書いていただいている評も、次回に一年分をまとめざるを得ませんでした。又、私の職務上、機関誌の一つの主張のつもりで書いている〈歌楽帖〉も四分の一にしました。

その代り、この困難な局面にある集団の活動を今後どうするか、団員の有志に集まってもらって話し合いたいと思います。私が司会をやりますが、まず代表の長沢さんからお願いします。

長沢　以前朝日新聞に〝文化と企業〟という特集があり、最後に記者座談会があって、最近、「オーレックス・クラシック・コンサート」などという冠コンサートが盛んに行われていて、低成長下での活路模索の話が出ていました。我々の中には〝武士は喰わねど高楊枝〟式な考えもありますね。集団というのは利潤を目的とする企業体ではないわけですけど、この仕事を続けてゆくためには現代に対してもう少し的を絞って考える必要があるのではないでしょうか。不況のもとでは出すものは少なくして、節約していくということも大事だけれども、締めるばかりで心も貧しくなってきては何もならないし。皆で知恵を出し合って、活路を見い出してゆかなければならないと思っています。

三木　演奏者の立場から坂田君いかがですか。私は、最近団内外で演奏家が保守的になっていると感じるんですけど。

坂田　保守的というのは音楽的に保守的ということですか。

三木　そうですね。要するに一九五〇年代から七〇年頃までは多様な実験的なものが多かったんですが、世間に喜ばれるたぐいのものでなかったために七〇年代以降の音楽的不況を招いてしまったという分析ができると思うんです。演奏家としての坂田君が集団に参加した頃に比べて、周囲がそういう風に見えないか聞きたいんですが。

坂田　私個人としては保守的にならないように心掛けているつもりですが。確かに実験作品みたいなものは大衆から支持されなかったということから、その反動として観客に受ける企画をと考えた時期もあったように思います。それと、ブームと言われていた頃には、古典畑の人たちも含めて同じような活動をしていたと思いますが。ある時期から古典の人は古典、現代の人は現代、というように専門の分野に分かれて、保守的になった部分もあるように思います。

三木　奈良君は事務局長として、実際に新しい作品を扱うことに対してそういう世間の風潮を感じますか。

奈良　営業活動は、あまり邦楽界と関係がないところでやっていますから、そういうことは感じませんが。古典・現代にかかわらず、良いものは良いということしかないんです。その辺の関わり方が演奏家の人たちと違うと思います。事実、今の集団のレパートリィや様式などは大変営業しやすいんです。ただ、その割にあまり売れてくれないので多少ジレンマに陥りますが……。

三木　ということは、対外的には未来を楽観できるということになりますか。

奈良　そうですね。はっきり言えば、団内では悲観的、外へ出れば楽観的に。(笑)

三木　外部の人たちは集団が裕福だと、

長沢時俊

疑いもなく思っているようですね。次に楽器係として団員でもあり、個人として箏屋さんである中島君は。

中島　よく同業者で飲みに行くんですが、先日、ある先輩が「将来銀座へ店を出したい」と言ったんです。他の連中は、こんな時にちょっとおかしいんではないかと思ったりして……。だけど長にしてみれば、銀座に店を出すことで、邦楽をアピールしていこうと考えているんではないかと思うんです。何とかしなくてはという気持は、それぞれが考えていると思いますけど。例えば新宿で同じ箏屋をしている兄がミニ・コンサートを定期的にやっているんです。それも楽器のPRになるんではないかということで……。

奈良　楽器が売れなくなっているらしいんですが、実際に何年前と比べてどのくらい減少しているかわかりますか。

三木　確かな筋の統計では、箏を例にとると十年ほど前の邦楽ブームから年々五パーセントずつ減っているそうです。先日、楽器商組合の若手の人たちから聞いたところでは、戦後最低の状態ですって。三味線は民謡ブームにもあやかって二、三年前にピークがあったのですが、すでに減りはじめている。楽譜もすごい落ち込みで、ある有名な小曲集が三分の一。

奈良　七〇年代は邦楽にとってどういう時代だったんでしょうか。

三木　七〇年の万博がいわゆる前衛の終り。現代邦楽のブームはそれより一、二年ずれてましたよね。その後公害が顕在化してきて、高度成長がストップする社会情勢になり、音楽も当然それにつれたわけです。それ以後はディスカバー・ジャパンが流行り、古典や民謡も含めてかつてあるものがあるがままで何の努力もなしにブームになってしまった。そういうのは長続きしないわけで、ブームが終った今、音楽界全体、少なくとも邦楽ではどうしていいかわけがわからない状況ではないですか。レコード・出版みんなひどい。

奈良　集団の創立が六四年の東京オリンピックの年であり、七〇年には安保・万博があった。それは過の十年は世紀末的風潮になってきた。その社会的情勢と集団の流れが象徴的にマッチしていると思いますね。

三木　八〇年には安保すら起らなかったですね。市民的で革新的な運動自体が起りにくくなり、右寄りなものが顕在してくるという大変危険な時代になって来ていますね。しかも世紀末に向っているもんですから、なかなか精神的に取り直しがきかない状態だと思うんですね。

三木　稔

やる人と聞く人

奈良　学生のクラブ活動というのは自分たちが楽しむためにあるわけだし。邦楽の世界も自分たちから外へ何かを働きかけて存在を明らかにするというのでなく、囲って守られてきた。ですから聴衆の開拓という点もなおざりにされてきたんですよね。こうして考えると邦楽をやる人をふやすことが、底辺拡大することになるか疑問ですね。演奏しないまでも聞く人を増やす方法の方が、集団の、又は現代邦楽のためになるのではないかと思いますね。日フィルの成功例もありますし。

坂田　日フィルがあそこまで成功できたのは洋楽に関心を持っている人、つまり洋楽器の業界自体が大きいから、聴衆を獲得する方法だけで成功できたと思うんです。洋楽よりも聴衆の数が比較にならないほど少ない状況を考えれば、聴衆の獲得だけを優先してこの運動が盛り上がっていくかどうか。

三木　集団は六〇年代に始まり七〇年代にレコードが沢山出たり、海外にも行くようになりました。その七二年に「これからは第二期に入り、ある意味で拡散の時代である」と言ったことがあります。それまでは同人システムでしたが、その頃研究団員制度の発足や地方公演、海外公演、その他の演奏会は飛躍的に増加しました。それと同時に教育活動も始めましたが、その教育活動があまり成果を生

ところで、米沢君は学生の三曲運動をやっていたわけだけど、若手として具体的な対応を何か考えていますか。

米沢　僕たちが学生の頃は演奏会が少なかったせいもありますが、比較的売り手市場でした。今、チケットを売るために大学を回ってもなかなか売れない。先日の芸術祭コンサート〈鳳凰三連〉の時は随分協力してくれた大学もあったんですが、自分と十歳くらいしか年が違わないのにすごくギャップを感じる時があります。といって、どうやってアタックしたら良いのか暗中模索なんです。

まなかった。このことは誤算でした。原因としてはカリキュラムが整備されてなかったことが言えます。聞く人とやる人を一緒に増やそうとしたので、迷い込んでしまったのかもしれない。邦楽はもともとやる芸、現地芸が多いから、観賞に結びつけるのは難しいですよね。

坂田　運営する立場からいうと、三木さんもさっきおっしゃったように、聞く人もふやし、やる人もふやしと欲張りなんですね。どこかにひとつのポイントを見つけることが、今必要ですね。どうしても何かやろうとすると、色んなことをやらなければ気がすまない。どれかを犠牲にしても、その一点に絞って集中的にやってゆくことの方が大事ではないですか。

三木　そうですね。贅肉になっている部分を一旦押えて、一番必要な筋肉を鍛えるという意味で、やはり魅力ある演奏をすることでしょうね。

一同　そうですね。それが一番。

坂田誠山

喰うか喰われるか

米沢　最近読んだ経済雑誌の特集で「撤退の論理」という記事がおもしろかったです。往々にしてヨーロッパ、アメリカ系の企業、例えばGEなどは、ちょっと成績が落ちたり分析してまずい部門があると、その部門はパッと他の会社に売ってしまう。買った会社も赤字が何十億もある部門を買えば、税金対策にもなるわけです。日本の企業はそういうことは絶対しないそうですね。それは性質で。今、集団がサービス部門であり営業部門であるという風に多岐に亘ってますね。例えば、今年私たちが担当した「夏のアカデミー」も、サービスを重点的に考えるとまっ先に切りたいようなこともあるし。僕自身、どちらに集団の路線を乗せればよいのかわかりかねています。

奈良　集団は現代邦楽という業界全体を抱えているわけですから、集団としてこれを切っても、よそでこれを肩代りしてみごとに作り上げてくれれば、いくらでも覚悟を持って切れるのだけども。ここで集団があきらめてしまうと、もう永遠にこの業界の中では育ってゆかないという危機感があるし、何とか集団が態度でこらえてでもやろうということになるんですよね。それは組織の人間にもよりますが、集団はいい人の集まりだから、余計その思いが強くなるんですよ。

米沢　石にかじりついてでもという玉砕精神なのが、日本人の特徴で、だからこそこういう団体が成り立っているんでしょうけど。

長沢　日本人というのは情報収集が下手らしい。これは突きつめると農耕民族か狩猟民族かによるのであって、狩猟民族はいつもどこに草があるか見ていないと何千頭の牛や馬が死んでしまう。農耕民族は同じところにいて、延々と耕していればいいわけで。日本では情報官というような人の地位がすごく低い。ヨーロッパでは非常に高い。忍者なんかは日本では位が低かったわけで。近代になっても残っていて、企業でもそのようですね。

三木　情報に限らず、創造的にものを考えてゆくのが金にならない国なんですよね。これは十年も前の話ですが、ある音楽通の人から「長沢さんと三木さんは集団から少なくとも月に二十万円はもらっているでしょう」と言われたわけよね。（笑）その時は零でしたが、今でもその想像のひと桁も下、時には零という状況は、ちょっと、僕らでも予想を越えたというか、予想の下をくぐったというか。僕個人はそれでもいいと思うけど、僕らが収入を他から得る時間と労力を割くために、実際にこの運動に手を貸すことができなくなるのではないかと考えて、今大変つらいとこですね。経済界は輸出で大もうけしているのに、我々は彼らの経済摩擦のあおりを食っているというような状態で。海外での我々は日本の過去の軍事・政治・経済の悪の清算人といった役柄を素手でやっているに近いんですね。

長沢　企業との問題も、ただ企業から金もらえばいいという話でなくて、はっきりした芸術的倫理の確立が必要でしょうね。我々の節は曲げずに慎重にやっていきたいと思います。

奈良　ところで、皆さんは本当にこの団体で喰っていこうとしていらっしゃるか聞いてみたいですね。

田村（遅れて参加）　このところ集団のメンバー、白根さん、田嶋君、平田さん、三橋君とリサイタルが続き、あふれるばかりのお客さんを集めていましたが、集団の定期に比べ個人のリサイタルの盛況を見ると、考えさせられてしまいますね。リサイタルの場合も集団の場合も、音楽の中身にかかわって来るのではないかと思うんですが。

三木　今年は芸術祭参加公演で音楽部門が三十五公演中洋楽は四件のみ、あとは全部邦楽でしたね。集団はソロから合奏に至る幅広い活動をしてるわけですが、集団の中でやると個人が団体の中に埋もれてしまうという危惧を、各人が持っているのかもしれませんね。また個々のリサイタルが増えている一方、一時流行っ

奈良義竟

た少人数のアンサンブル団体の創立はこのところないですね。集団の競争相手として総合的な団体もついに出ないままで。ただ、各種の楽器を集めた合奏活動がなくなってしまったら邦楽はまた後戻りですから、集団がこの不況期を越えるかどうか、大変な時期です。

長沢　以前は「関邦連」など、いっしょうけんめい活動していて、彼らも集団の強力な味方だったんですが。そういうアマチュアの人が社会人になった今、昔と状況が変ってきている点考える必要がありますね。

三木　集団の周囲を見回しても、十年前までに比べると〝運動〟という側面はすごく後退していますね。要するに、演奏団体は洋邦を問わず、仲々喰えない。しかし集団は仕事の絶対数が多く、かかわる時間も増えている。その中で個人的な時間や仕事を確保しなきゃという面と、やはり集団の力には頼っていきたいという面が、ごっちゃになっているんではないかな。

奈良　本当にごっちゃになっているのなら、整理つけようとすればつくと思うんですよね。その整理をやった方がよいのかということですが。

教育活動と家元制度

三木　洋邦合わせ、演奏家は演奏活動で喰えないところを教育活動で補っている。ところが、集団がそれに関わろうとすると、どうしても家元制度と混同される恐れが出てくるわけですね。そのあたりちょっと皆で考えてみたいと思うんですけど。自分の労力に見合う収入を得る機構を作るということは、人間の権利ですね。それは、教えられる者にとっても大変役に立つことなんですから、やはり教育システムは早く確立した方が良いと思うんですが。

坂田　僕は常々それが先だと思っているわけですけど。家元制度はだめだと簡単に片づけるのでなく、家元にもメリットが沢山あると思いますから、デメリットの部分は踏襲しないで、いい部分を見習った教育システムを集団はそろそろとるべきではないかと思います。新たな方法でそういう活動をしてみるのも、ひとつの手ではないかと前からずっと思っているんですけど。具体的には、例えば現代邦楽に限るのでなく、色んな沢山の日本音楽の中でいいものを教えてゆくという方法。うまく整理がつけば成功するんではないかと思うんですが。

三木　集団の方針は現代だけをするというのでなくて、同時に古典を現代的に継承してゆこうということなので、当然それはやっていいわけです。ただ邦楽でいう古典が、ギリシャ的な意味の確かな古典かどうかは疑問がありますが。いずれ、すべての曲をもう少し自由に伝えていいと思いますね。そうでないと型だけの伝授になってしまうでしょう。集団はちゃんとしたポリシィを持ってアクティヴな伝統を伝えていく義務があると思っています。その辺は集団の活動の中でちょっと忘れられた、不備だった部分であったと思いますね。

坂田　それがうまくいっていれば、もう少しちがった形で集団が大きくなっていったんではないかと思うんです。

三木　集団であるから集まったら合奏のことしか手を出さない、そのために個の楽器についての部分が系統的にされていなかったのでないかと、要するに不備なんです。それもいっしょにやってゆかなきゃ、それが生活基盤にもなるわけですから。

奈良　教えることに関しては、〝団体と個人〟みたいなことがあって、個人の職分を犯すのではないかという考えもあると思うんです。古典を教えるとなると、なぜ集団で教えるんだ、それは私の家に来ればいいんだとなってくる。そうすると今、本当に魅力ある教室開いても、それはある部分の人の非常な犠牲で成立することです。教える方も、個人の職分と集団という団体のやることと、どうも分れているような気がするんですよ。だから集団が何かに手をつけようとしても、ひとつも前に進まないというようなことがあるんではなかろうかと——。

ブルータスになる？

三木　世の中では集団は反家元であって、集団所属メンバーを含めて集団と、邦楽界とが何か対立しているみたいな印象を持っているかもしれないけど、集団の中に集団の個人と集団の葛藤があるわけですね。それが実は一番大きいんです。だから我々自身が解決できるんですよ。

奈良　結局、そこの整備の仕方になって来るんじゃないですか。

三木　中島君は琴光堂店主として一本立ちしてからこの十年、箏曲界を見ていて、何か変わったと思えることありますか。おさらい会のあり方とか。

中島　おさらい会のあり方は変わってないですけど、ただ、毎年やっていた先生が一年置きになって、それが三年置きになったりという変化はありますね。

坂田　習う人が少なくなっていますね。弟も兄八もそうです。大学でのクラブ員数も減っています。

三木　一つの大学内のクラブが多様化してきているでしょ。一途に求めて何かをやろうという部が減えて、同好会で好きな時やればよいという風になってきているようですね。

坂田　時間かけて何かをしようというクラブなどは、流行らない。

奈良　今の雑誌のあり方が象徴的ですよ。例えば「ブルータス」というのがありますが。自分が体験しなくてもよい。読んでそれらしくなればよく、ファッションとして身につけてくれればよい。そのために強力な編集の仕方をしているわけです。

米沢　コンサートで言えば総合定期幕の内弁当論、あれがブルータスに当りますね。それがショウウィンドウになって、それをまず読んで興味のある方の専門書に走るというような客の引き方をしたかった。

三木　「ブルータス」を集団に適用しようとすれば簡単にできる。そういうコンサートや雑誌を作ったら売れると思いますか。

奈良　集団のコンサート自体がそういう雑誌的になっていますよ、一年間通すと。ところがその長い間お客さんは辛抱し切れないですから、一回か二回のコンサートに一年分が詰まっているといいんです。この演奏会に来てよかった、この次も来よう、となるのが普通で、大体逃しているわけですよ。

三木　今、実は逆になっている。なんなれば総合定期でブルータスみたいなのをやればよい。〝楽しい邦楽コンサート〟みたいなのを。そして小ホール公演でシビアなものを。ただ本当にブルータスになるべきなのかということが問題なんですが。

奈良　そうですね。今の時流として例を挙げたんですが、本当に集団がやるべきことは何なのか見極めてゆかないと。

三木　我々が一番最初テレビのポップスに出る時は、「日本音楽集団」を使わなくて「ホームジーク」なんていう名で出たくらい意識は画然としていた。今は、純粋なものを求める人たちを連れてきてよと言いたくなるくらい。しかし責任は我々にあって、レーベルの決め方が不徹底だったんです。例えばボストン・ポップスのようにすばらしい仕事をすればボストン・シンフォニー・オーケストラでなくても誰でも使いたくなる。両方に客が来る。その努力をしないうちに集団自体のイメージが拡散してしまったんですね。決めたら決めたことに自信を持って、これでゆくんですっていう生き方をしなければいけない。

坂田　聞いた話ですが、邦楽の世界はタコ壺文化って言った人がいたそうです。壺の中では盛んにやっているけども、一歩外へ出ると全然その文化は他へは知られない。

中島　隆

どのものでもやらなければ喰っていけないということで、集団の顔がぼやけています。その辺きちんとやる必要があるんではないかな。

奈良　回りを見てみると「集団」で何でもかんでもやらなければならないことになっているみたいです。ポピュラーなどをやるとき、外からの求めは「集団」でなければいけない。外から見ている人は、あの集団にこれをやらしたい、集団でなければならない、ということになっている。

三木　例えば、ある評論の方は、集団がアレンジ物などやってけしからん、と文章にお書きになる。我々もやりたくないんだよ、でもいろいろあるんだから黙っ

「夏のアカデミー」について

日本音楽集団は1971年以来、邦楽愛愛好者の方々に"夏のアカデミー"（当初、夏期合奏研究会）を主催してきました。12年間の参加者は日本全国、それに多数の外国人も含め延1,552 名に達しています。しかし当団の経済的負担が年々増大し、団運営を圧迫しはじめたことと同時に、内容の新鮮さ、開催方法について再考の必要もあり、とりあえずしばらく休むことになりました。カリキュラムなどの整備をし、できる限り近い将来装いを新たにして再開したいと思います。毎年参加を楽しみにしていた方々にはまことに申し分けありませんが、しばらくお待ち下さるよう、また、ご提言があればお寄せ下さるよう、お願い申し上げます。

ナショナルとインターナショナル

三木　それは日本人の問題でもあるわけですよね。

逆説的だけど、今僕は、できるだけ混血になるべきだと思うんです。日本は混血しないと危ないと。混血の国は美人が多いし、正面切って考えても、新しい文化は混血からしか出て来ないんですよ。日本の古典は、それが作られた時代精神をもって生れているので、今同じことをやってもそれ以上のものは作られりゃしないんです。我々が洋楽を知りアジアの音楽を知って、その交流、混血の中から次の文化ができるんで、そういう意味で他の血と接し、めんどうでもより多く接触することを心がけた方がいいと思うんですね。

奈良　三木さんは常に思っていらっしゃるから思い切っておっしゃいましたが、僕などかなりショッキングな発言ですね。その方が良いと思ってもはっきりおっしゃる方がいなかったから、ショッキングなんですが。他の方はどうでしょう、実際はそんなことやられたらたまんないという人、多いんではないですか。

田村　民族的であるほど普遍的であるといいますよね。今の三木さんの混血ということは僕の感じ方では、もっと伝統の中により新しい血を吸収して、伝統の枠の中で新しいものを作るというイメージを持っているんですけど。本当に読んで字のごとくどっかの人と混血してしまうというんでは、本当の日本の伝統というのはうすれてしまうような気がするんで。もう一つ日本の伝統に立ったそういうものでないかと思います。

三木　僕は田村さんのおっしゃるように考えつづけてきたんですが、今はそれをふまえた上で混血を進めなければ危いと感じています。

米沢　純血を守ることによって伝統云々というのは、家元制度のよかった功績。今の混血を計ろうという話は、これから先の伝統を作るときに純血のままだとかつての古典よりは同等もしくはそれ以下のものしかできないから、それ以上のものを過去に残す、新しい伝統を作るためには、混血が必要だっていうことをおっしゃったんでしょ。

三木　そうですね。例えば現に日本人は赤毛でオペラやって全然似合わなかったのが、何とか西洋芝居やるようになった。西洋音楽もやるようになった。一方、外国人、アメリカ人などが来てどんどん尺八を吹く、箏もやるという時期に、日本人の伝統文化守るんだからおまえたちに尺八は吹けやしないなんて言うのは、言えない状況になっていると思うんです。少々混血したくらいで、本当の民族の伝統音楽の良さがなくなるくらいのもろいものだったら、もっと本気で古典を鍛えなければなりません。パレスチナ難民問題事件がありましたが、旧約聖書を見ると、彼らが永遠にいがみ合う宿命を感じるんです。ユダヤとアラブとパレスチナが混血する以外に、中東の平和の保障はあり得ないと僕は真剣に考えるんだ。

この間「未知との遭遇」という映画を初めて見たのね。あれは僕は嬉しかった。大ていSFというと戦争でしょ。あんなにまで異質のものとの出会いを美しく、そこに未来があるんだという風に撮ったSFは、かつてなかったと思うんです。集団のやっているのはそれだと思いたいんですね。

米澤　茂

音楽と思想

三木　もう一つどうしても今回触れておきたいのは政治・社会との関わりです。集団は、創立の時から、政治には個人としては自由だけど団としては関わらないという形で来ているわけですが、今の時点で代表の長沢さんに発言していただきたいんですが。

長沢　それは、三木さんもそうだと思うんですけど。集団ができる前から劇団にいたり、新劇の仕事をしたり、そういう中で感じていたことですが、広い意味では思想性というのは当然なければいけないと僕は思ってます。但し、団内に政党色みたいなものを持ち出して来ると不必要な摩擦が起きて来る。そういうことは絶対避けるべきだというのが僕の持論なわけで、それを守って来たつもりです。これは非常に難しい問題で、受け取りようによっては消極的にとられる可能性もあると思います。僕はそれを承知の上でもあえてそうした方がいいだろうと今でも思っています。音楽における思想性については、大いに討論していいんじゃないかと思います。そういうことと、一切ノンポリということとも違うし、正しい意味での思想性というのは話し合わなければいけない。集団の場合個人それぞれ芸術論も違うし、芸術論っていうのはつきつめていけば哲学の問題になってゆくわけですから、演奏論から作品論までも含め人間の根本的な考えにまで及ぶと思うんです。それとは別に、現実にぶつ

かった問題とか、集団として立場を明確にしなくてはならない場合も来るかもしれないですね。そういう時はそういう時でとことん話せばいいのではないかと思っていますけど。

三木　かねがね思っていたんですが、邦楽というものはある意味で国の音楽だと。従って政治的に利用され易いと。それは敏感に嗅ぎ分けて巻き込まれないで済むように、責任ある地位のものは考えてゆかなければならないと思うんですね。そのためにはすべての団員も一応の社会人としての常識を備えていてもらいたい。演奏家だからそんなことどうでもいいということではないと思います。日本音楽集団のように、日本の楽器で全てのタイプの器楽をやってゆくという団体は他にないので、どんな世の中でも左右されずに存在していなければならない義務もある気がしています。長沢さんがおっしゃったように、ケースバイケースでちゃんと判断をして、社会の公的な存在としてあらしめたいと思っています。

田村拓男

長沢　それなりのことは三木さんもきちんとなさってきたと思うし、僕も努力してきたつもりです。とにかく集団という組織をつくり社会の中で生きてゆくわけだから、団員の意識はもっともっと高くなってもらいたいですね。

奈良　社会との関わりという前提で話をしてゆくと、政治状況をまともに受けて、それぞれ立場を明らかにし、押し流されないことを考えたりするわけですが、不況ということをテーマとして考えてゆくと、稼がなければいけないという次元の低いことが前面に押し出されてくる。そうすると政治的なイデオロギー云々ということは考えている暇はないんだ、稼いでゆこうということにもある部分ではなってくる。今日のテーマは「不況下」であるし、今の話題は「政治・社会との関わり」ということですが、見極めてゆかなければならないのは難かであるけど、どういう風にいさぎよく身を処して行けるかということは大問題だと思うんです。

長沢　今日の不況という問題でもつきつめてゆけば、なぜ不況なのかということになりますよね。これは全世界的な問題だと思いますが。でもそれは芸術団体だからといって避けて通れるものではないですね。

奈良　集団は芸術団体で、公益性を持った団体であるということを銘打っているわけです。公益性ということは、親がないけど世の中の役に立つことをやっていくんだということです。ですから、皆さんから会費をもらってその中でいかに社会に役立つことを、どういう風にやれば良いかということを考えるわけです。しかし、一方では稼がなければいけないとも考える。つまり、経済的に集団が成立ってゆかないなら、所属する個人も段々離れてゆくんではないかという懸念があるわけです。

田村　先日、朝日新聞の「天声人語」にいいことが書いてありました。人は現実の姿を見る、だけどあるべき姿を見失っている、と。ドン・キホーテの言葉にあるんだと書いてありましてね。現実こうなんだから仕方ないんだとあきらめ、あるべき姿を追求する気力がなくなっているんではないかと。今、資本主義、共産主義である前に核の脅威から逃れなければいけないということが言われてますけど、本当に人間の課題としてどういうことを考えなければいけないのか。集団は社会に対してどういうことを主張しどういう音楽を作らなくてはいけないのか、ということを考えなければいけないと思うんですよね。そうしたことが集団の中で意志統一でき、音楽家としての見識を備えていれば動ずることもないと思います。そして集団は精神的にもっと高まり、より強くならなくてはいけないんじゃないかなと思うのです。

奈良　「天声人語」といえば、こんなことも書いてありましたね。近頃の日本人は音をたて過ぎるんですって、電車の中で座席に座るんでもドシンと座ったり。抽象的ですけど足腰を鍛えて格調高い立ち居振舞をしてゆけば、それほど誤解されることはないのではないか、という気がしますが。

三木　もしかしたら近頃少し鈍っているかなということがあるかもしれない。その辺を立て直して、いざというときフレキシブルに使えるだけの基本の力を常に持っていることが必要だと思うのです。絶対にその時々のブームに左右されたくないですね。

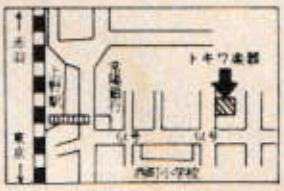
長沢　我々はこの十八年間やってきましたから、当然、自分たちのやってきたものに誇りが持てるわけです。音楽家というのはそれでものを言うわけだから。今まで全力挙げて言ってきたという実績はあるし、これを前面に押し出し、もっと進めてゆくんだ、音楽家としての自覚の上に、もっともっとやってゆくんだということで充分だと思うんですよね。音楽以外では言えないんですから。それは平和の問題であり、又、人間の尊厳かもしれない。そういうことを音楽を通じて言っていけばいいと思いますね。

三木　音楽は本来抽象芸術ですが、効果として使われた時に大変こわい威力も発揮するんですね。例えばナチがやったように。だから右であれ左であれ効果のために使われることを、我々は慎重に避け

てゆかねばならないでしょう。我々は、音楽としての秩序を持った作曲なり演奏を心掛け、受取る人がそれによって幸せになったり、平和をめざす意志を強めてくれればいいんです。そういう意味で集団が十八年間やってきたことは決してまちがいではない。周辺はマイナーでどん底です。だからこそ未来は上り坂だと思うこともできるんじゃないかな。団内外の明るい着想を喚起し、楽しい演奏の提供を心掛ければ、他に抜きん出て素敵な明日を迎えられると思うんだ。そう信じてやりましょうよ。

琴造り
くらもち
十三絃
十七絃
二十絃
龍勝
いとしめも致します
千葉県柏市豊住五ノ二ノ二十一
電話〇四七一・六三・三八六四

尺八の店
都山流
琴古流尺八及楽譜販売
銘木常磐
琴風尺八発売元
樹脂製　一尺八寸　五孔九、五〇〇円
七孔一〇、〇〇〇円
本　製　一尺二寸より一尺三寸
一一、〇〇〇円―二六、〇〇〇円
品物の輸送もお受けしております。
御連絡下さい。
扱商品・琴、三味線、横笛、竹管高級品在庫豊富
㈲トキワ楽器
本　社　〒一一〇　東京都台東区東上野三―六―二
電話（八三二）七五五五・五五六〇
連絡所　〒三三六　浦和市常盤六―一二―一五
電話　〇四八八（三二）一四四四



日本の作曲家'83―出版作品演奏会X―邦楽器の夕べ
○夕月によせる詩／高橋雅光　○ククシーム／西村朗　○尺八・ピアノ・打楽器のためのダイアローグ／尾崎紋之　○カルナー1／小西奈雅子
○箏独奏曲／新実徳英　○二面の箏と十七絃のための三楽章
司会＝芥川也寸志　音楽監督＝三枝成章　協力＝日本音楽集団
●一九八三年一月二十一日(金)午後六時半開演（二十日―洋楽器の夕べ）
■場所＝草月ホール　■入場料＝一〇〇〇円
■お問い合せ＝三五三―九三五七・三五九―三九一六

日本音楽集団第九次海外公演の報告と記録

第七回アジア芸術祭参加

藤崎重康

十月十九日の朝、成田空港ロビーに集合したメンバーは、国内旅行のような身軽ないでたちであった。海外公演と言っても飛行機で四時間、日数も四泊五日の香港であってみればそれも当然のこと。みんなの表情にも緊張や気負いなど感じられず、正に普段着の旅立ちであった。しかしこの気易さが後で起る重大事件の誘因であったのかもしれないのだが……。ともあれ一行は、午前十時、香港へ向け出発したのである。

今回の目的地香港は、南シナ海に浮ぶ「香港島」、対岸の「九龍半島」、そのさらに大陸寄りの「新界」の三つの地域からなり、このうち香港島と九龍はアヘン戦争によってイギリスに割譲され、新界は一八九八年より九十九年の間イギリスの租借地とされた。先頃のサッチャー首相訪中の折問題となった香港の返還とは、実はこの新界地区のことなのだ。しかし新界なくしてはその先端の九龍、香港島のイギリス領としての存続は不可能ではないかとの説もあり、すでに資本を海外に移し始めている大資本家などもいるそうだ。加えて教科書問題で反日感情の高まりも伝えられたりで話題には事欠かない。

さて成田を発って約四時間、一時間の時差があるので午後一時すぎ、JAL七三一便は気温二十一度とまだ暑さの残る香港啓德空港に着陸。今回集団が招かれた第七回アジア芸術祭の主催者である市政局の担当者達の暖かい歓迎を受けたのち、車で海底トンネルを通ってホテルのある香港島に向う。

ホテルでくつろぐ間もなく、道路をへだててすぐ向いにあるコンサート会場の下見。会場のシティーホールは中国語で「大会堂」。コンサートホール、シアター、会議室、図書室、レストランなどを備え、こちらの市民会館といったところである。レクチャー・デモンストレーションに使うリサイタルホールとコンサートに使うシアター、どちらも響きが良さそうなので一安心。夜は日本総領事館の文化芸術部門を担当されている領事の飯野女史、副領事の小川氏のご招待。翌日のレクチャー・デモンストレーションの通訳をして下さる、英・中・日・三ケ国語に堪能な丙稻源氏との打合せも兼ねて会場内の中華レストランでなんと十一品もある豪華な広東料理の夕食。最初のうちは料理が来るたびに先を争って手を伸ばしていたのが、半分を過ぎる頃からだんだんペースダウンしてきて最後のデザートのお菓子はとうとう箱に入れて持って帰る程であった。しかしこんな料理を毎日食べていたらたちまち太りそうだが、香港の人は皆いたってスリムである。その秘密は食事の時に一緒に飲む中国茶だそうで、女性メンバーは全員「お土産に買って行こう！」

食事のあとフェリーで香港島をふり返りつつ対岸の九龍まで渡ったが百万ドルの夜景むべなるかな。帰路は地下鉄、座席がむきだしのステンレスで動いたり止まったりの度におしりが滑るので不安定この上ない。何でも座っている乗客のすき間を詰めるためとかでいかにも人口過密の香港らしい。香港らしいというか、中国らしいというかもう一つ感心したのは地下鉄の駅ごとに壁の色がすべて変えてあることで、それも赤・青・黄などの原色ばかり、これならかなり酔っていても降りる駅を間違えないであろう。夜の散策で腹ごなしもできたのでそのままホテルへ戻る。

翌二十日、午前中はフリーで、昼まで休んでいた人、さっそく買物に行った人などさまざま。午後二時に会場入りし、楽器を出すやさっそくリハーサル開始、この日はレクチャー・デモンストレーションなので特にリハーサルはいらず、コンサート用のアンサンブルの曲の練習を行った。開始予定の六時になってもお客さんの数はあまり多くない。「今回やはり教科書問題が影響していて、コンサートの方も商員になりそうもないが、そんな中を来てくれるのは本当に熱心な人ばかりだと思う。」飯野領事が言われた言葉が思い出される。やや遅れて始まった本番は丙稻源さんの三ケ国語を駆使しての名通訳でなごやかな雰囲気のうちに進む。メンバーの服装は主催者側からプレゼントされたアジア芸術祭の揃いのTシャツ。各楽器毎に紹介と演奏を行い、締めくくりに全員のアンサンブルで〈八郎物語〉の序曲を演奏したあと質問を受ける。「古典と現代曲はどちらが難しいか」とか、「日本音楽にもインド音楽のような即興演奏はあるか」その他記譜法や、楽器の種類まで質問が及んだりもした。その後で音楽監督の三木稔が逆にお客さんに、それぞれの楽器について、過去に見たり、演奏を聴いたりしたことがあるかどうか質問し、手を上げてもらったところ、箏、尺八、笛、鼓などが多かった様だ。そんなわけで、三十分も時間をオーバーしたレクチャー・デモンストレーションは有意義のうちに終ったのである。

その日の夕食は何故か韓国料理の焼肉、二階建電車に乗って出かけ、食後ブアマンズ・ナイトクラブを訪れる。ナイトクラブと言っても、ガラクタ専門の露店や

季刊邦楽

◎主幹／吉川英史

㈱邦楽社 〒一〇五 東京都港区虎ノ門一―十九―十四

定価一二〇〇円 年間購読受付中！

31号（1982年夏）

特集　名曲総合研究Ⅰ

千鳥の曲

歴史的背景／吉川英史

作曲者・吉沢検校／伊藤隆太

歌詞の考察、歌い方・箏の弾き方・尺八の吹き方／上木康江・山口五郎

胡弓の入れ方・弾き方／畦地慶司

国立民族学博物館音楽舞踊シンポジウムより

- ●日本民族の源流をたずねて
- ●S.57年度邦楽入学試験問題
  東京芸大／大阪音大／NHK育成会／正派音楽院
- ●NHKの邦楽番組改訂／岡敏夫
- ●「ゾリステン」VS.「1979」
- ●邦楽家の舞台マナー（アンケート）

30号（1982年春）

特集　名曲のルーツⅧ

道行もの

道行の意味とその変遷／吉川英史

三味線声曲の道行もの／竹内道敬

- ●海外公演の体験
  伝統芸能五人の会（座談会）
- ●日韓音楽交流の歴史／草野妙子
- ●S.56年度邦楽界総決算
  芸術祭／10大ニュース
- ●明暗寺物語／緑川玄三
- ●フュージョンミュージックNo.3
  三木稔の世界

32号（一九八二年秋）

特集　名曲総合研究Ⅱ

茶音頭

好評発売中！

茶音頭と女手前／吉川英史

作詞者と歌詞の解釈／臼田甚五郎

演奏法／藤井久仁江・中田博之・山口五郎

- ●邦楽五十三次(3)●ハワイ大学と邦楽●パリ島の芸能
- ●邦楽界の師匠と弟子／青木鈴慕・芳村五郎治・笠原古都
- ●アメリカで出されたアメリカ人の邦楽レコード
- ●新人間国宝に聴く／島原帆山・竹本土佐廣

33号（一九八二年冬）

特集　名曲総合研究Ⅲ

吾妻八景

12月末発売！

吉川英史（背景）／大久間喜一郎（歌詞）

植田隆之助（作曲者・作詞者）／杵屋正邦（作曲）

市川春子（歌い方）／田島佳子（弾き方）

堅田喜左久（鳴物）

- ●邦楽五十三次(4)●コンクール（新内・宮城会・全道三曲・琵琶楽）●芸大資料館／田辺史郎
- ●検校の墓碑をたずねる旅／吉川英史

歌舞伎囃子詳説

『黒美寿』

五世 福原百之助 著

B5判 上製豪華本　発行 邦楽社

歌舞伎下座音楽のすべてを、経験に基づいて具体的、詳細に記録した画期的な本「黒美寿」！
博学な著者が自ら描いた舞台図、楽器図 180点を、オールカラーで掲載。目で見る歌舞伎音楽の世界。

第一章　舞台と囃子座、大太鼓・鉦の事
第二章　大鼓の事　第三章　大小鼓の事
第四章　芝居囃子器楽の事　第五章　笛の事

（都合により発刊が遅れていますが、もうしばらくお待ち下さい）

お問い合わせは、㈱邦楽社まで。☎(03)591―7271～3

お琴・三味線

品質の優秀さ
価格の安さ に定評がある
琴栄楽器店

弊店二階展示場

〈お　琴〉・常時在庫200面　・試弾できます。
　　・特別注文仕上げ受承ります。
〈三味線〉・在庫多数　　・試弾できます。
お琴・三味線のお買求めは琴栄ローンで（最高20回払い）

御琴・三味線専門
琴栄楽器店
〒500 岐阜市司町九（大学病院前）
TEL〈0582〉㊸1826・㊹1261

パンフレット無料送付致します

芸術祭コンサート〈東西楽器群の融合〉

三木 稔 作曲〈鳳凰三連〉

Eurasian Trilogy comp. by Minoru Miki

一九八二年十月九日（土）午後六時半開演
主催＝文化庁芸術祭執行委員会
制作＝日本音楽集団／（財）読売日本交響楽団

序の曲（一九六九年） Prelude for Shakuhachi, Koto, Shamisen and Strings
（尺八）坂田誠山　（二十絃箏）吉村七重　（太棹三味線）坂井敏子
（弦楽合奏）読売日本交響楽団（4・3・2・2・1×4）（演奏時間＝約16分）

破の曲（一九七四年） Concerto for Koto and Orchestra
（独奏二十絃箏）野坂恵子
（管弦楽）読売日本交響楽団（木管2・2・2・2、金管4・3・2・1、打楽器4、弦楽合奏）（演奏時間＝約27分）

急の曲（一九八一年） Symphony for Two Worlds（日本初演）
邦楽器群／日本音楽集団
（笛）藤崎重康（尺八Ⅰ Ⅱ）宮田耕八朗・坂田誠山・福田輝久・竹井誠・末澤道・太谷雅楽
（胡琴三味線）太田章子・加藤作（太棹三味線）坂井敏子・花房はるえ
（琵琶）半田淳子・田原順子
（二十絃箏）野坂恵子・吉村七重・宮越千子
（十七絃）木村玲子・内藤洋子・増田美智子
（打楽器）堅田啓輝・高橋明邦・黒坂昇・田村拓男
管弦楽／読売日本交響楽団（木管3・3・3・3、金管4・3・3・1、打楽器3、弦楽合奏）
指揮（全曲）／山岡重信　（演奏時間＝約36分）

□作曲者のことば（プログラムより）

今日は、私にとっても記念すべき嬉しい日です。十三年かかって、いや日本音楽集団創立以来十八年皆さんに応援して頂いて、ここまで至りました。

決して誤り得ないという極論もある東西の伝統ですが、共同作業を繰り返すことによって、新しい文化と異民族間の平和に至るのだと自分に言い聞かせながらの日日でした。これから先にも、同志の人たちと再び確かな歩みを残すことができますかどうか、今は最も苦しい時と自覚しています。暖かく、かつ厳しく見守っていて下さい。

こうして、私たちのコンサートに臨場して頂けることは何よりの励ましとなります。ほんとうにありがとうございました。

十一月五日付オン・ステージ紙、石田一志氏の批評より

「鳳凰三連」は、三木稔のライフ・ワークの一つ。私自身は解説を書く機会があって、個別的には録音を聴いたり、スコアを読んだりして親しんでいた。しかし三部作として初めてステージで通して聴くと、改めて三木のダイナミックにして首尾一貫した音楽理念の追求ぶりに感ずることひとしおだった。加えて、三木と共に歩んできた彼の同志たる音楽集団のメンバー達の習熟した演奏ぶりも眼を見張らせた。

「序の曲」での坂井敏子、坂田誠山、吉村七重の三曲合奏も、伝統の稲成よりもひとまわり大きい楽器を組み合わせた作品の意図を十分に伝える彫りの深い表現を展開していた。野坂恵子の音楽性と演奏技術を前提に書かれた「破の曲」では、野坂が、有名な受賞レコードの演奏を上まわる劇性を込めたソロをくりひろげた。新しい自作カデンツをも含めてこの日最も印象的な演奏だったといえよう。「急の曲」は、これまでソリスト達のひきたてに回っていた山岡が、その本領たる構成力を発揮した。マズア指揮、ゲヴァントハウス響の初演時の演奏は、録音のためもあるだろうが、オーケストラの弦群が控え目に過ぎている感があったが、その点もよく考慮されていた。これでオーケストラ側のソロが集団のソロ並みに生気を帯びていたら、申し分なかっただろう。

作品については詳しく述べる余地はないが、「序」「破」に比べると、「急」が色彩感において新しい地点に立っていることを強く感じさせた。或る意味では、それは我々の常識よりも一層大胆で素直な色彩感を示しているといえるかもしれない。

来週、秋の総合定期演奏会はこのコンサートをもって代えさせていただきました。

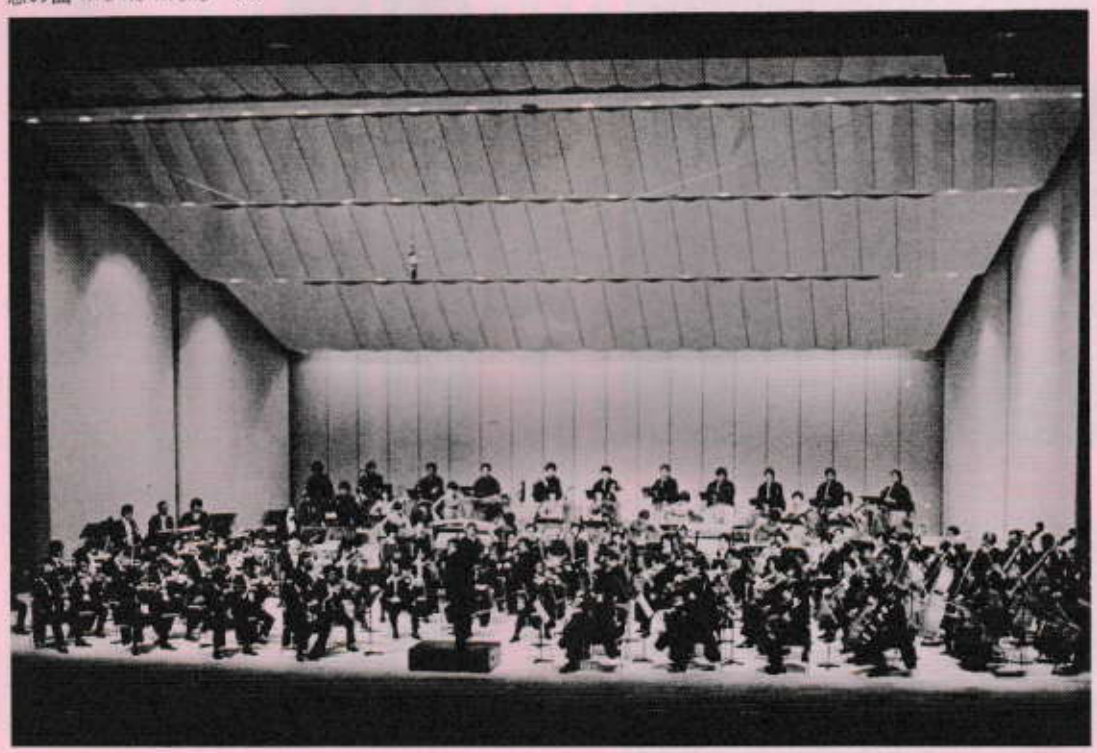
序の曲 JO NO KYOKU ＊

破の曲 HA NO KYOKU ＊

＊ Photo：竹原伸治

＊＊ Photo：あがたせいじ

急の曲 KYU NO KYOKU ＊＊



74 Regular Concert: 定期演奏会 ——詩と音楽・秋を謳う Poem and Music.

十一月三十日（火）午後六時四十五分開演
青山タワー・ホール

一、秋／望月太八作曲　〔笛〕望月太八・西川浩平　〔太鼓〕堅田啓輝
二、紫苑／山本邦山作曲　〔尺八〕三橋貴風　〔十七絃〕宮本幸子
三、孤——太棹のためのコンポジションより／杵屋正邦作曲　〔太棹〕坂井敏子
四、秋の調べ／宮城道雄作曲
〔唄〕安達千枝子（客演）　〔尺八〕宮田耕八朗　〔箏〕白根きぬ子
五、秋——子供の四季より／長沢勝俊作曲
六、玉桂／長沢勝俊作曲　〔三味線〕杵屋静子（客演）
七、秋の曲／三木稔作曲　〔尺八〕坂田誠山　〔二十絃箏〕野坂恵子
八、秋、そして——ダンス・コンセルタントⅠ〈四季〉より／三木稔作曲
朗読　伊藤智一　構成　花房はるえ

秋。
稲穂は稔り、収穫の秋。
農家では、農作を祈り祭りをする。
木々の葉は美しく紅葉し、やがて散ってしまう。
枯葉を見て、乙女心はもの思う。
冬に向い、人々は心凛しく感じ、厳しく自分を見つめ直す。

……

さまざまな秋、思いを詩の朗読も入れ、音楽だけの演奏会より、より味わい深いコンサートになればと、構成してみました。
詩では歌い表わせない部分、音楽では語りつくせない部分を、相互作用で、より明解に、そして、詩に潜む音楽性と音楽のもつ詩的精神がうまく溶け合い、新しい世界が創り出され、秋空に高く謳い上げられればと願っています。
最高のメンバーと、"秋"の名曲により、「芸術の秋」の最後を飾るにふさわしいコンサートができますことをうれしく思っています。（花房はるえ）

75 Regular Concert: 定期演奏会 ——ソロとコンチェルトの夕べ・その二 An Evening of Solo and Concerto.

一月二十五日（火）午後七時開演
青山タワー・ホール

昨年に引き続き二回目の"ソロとコンチェルトの夕べ"をお贈りします。この企画は、豊かな能力と個性を持つより多くの奏者にソロを弾くチャンスを、という意図で始められたものです。今回は、集団団員の三名の奏者に加え三味線の西潟昭子さん、それに指揮の国分誠さんをお迎えしてお聴きいただきます。

西潟さんは東京芸術大学邦楽科を卒業後、杵屋正邦氏の門へ入り、これまで現代邦楽の三味線奏者として六回のリサイタル、多くのレコーディング、海外でのコンサートと精力的に活動をしていらっしゃいます。今回は長沢勝俊作曲の〈三味線協奏曲〉をお願いしました。

田原順子は日本音楽集団の研究団員第一期生として入団。本誌の前号では「新しい邦楽を担う人」としてご紹介したように、異色琵琶奏者として活躍中。今年の琵琶楽協会コンクールに一位優勝しました。三木稔作曲の独奏曲〈流琵〉を演奏します。

宮越圭子は研究団員三期生として入団。上越は高田の生れ、正派音楽院を卒業。今回は三木稔作曲の大曲〈コンチェルト・レクイエム〉（鎮魂協奏曲）に取り組みます。

田嶋直士は研究団員三期生として入団。現在大阪を本拠に活躍中、関西音楽集団の代表も務め大阪にも音楽集団を、と心血を注いでいます。今回、定期には久々登場の三木稔作曲〈孤響〉を演奏します。

コンサートは長沢作曲の〈みち〉で始まりますが、この〈みち〉と二つのコンチェルトの指揮をお願いする指揮の国分氏は、一九四九年生まれ、桐朋学園の指揮科出身、斉藤秀雄に師事、七七年にウィーンに留学してオトマール・スイトナーに師事しました。ドイツ古典派、ロマン派の作品を得意なレパートリィとしている彼が、日本の楽器をどのように指揮するか楽しみです。（構成・高橋明邦）

入場料　●前売二〇〇〇円・当日売二五〇〇円
●団体割引　一五〇〇円（十人以上の団体）
チケット取扱い＝渋谷東急観光ブレイガイド・新宿チケットビューロー・銀座旭屋堂
お問い合せ・電話予約＝〇三―四〇九―五三五八（日本音楽サービス）
※団体割引はサービスでのみ扱います。

友の会会員募集

日本音楽集団では、演奏会などの催しのお知らせや（B会員）、定期コンサート・シリーズを一括して割引値で予約できるA会員を設けております。入会は随時ですので、ご希望の方は次の要領でお申し込み下さい。

A会員・定期コンサート・シリーズ半年の三公演、又は一年の六公演のチケット割引と座席確保、その他の催しのお知らせ、機関誌「邦楽現代」（年二回刊、定価四〇〇円）、広報誌「邦楽現代ニュース号」（随時発行）の無料進呈、会費は三公演のチケット代を含み半年で五〇〇〇円、または六公演のチケット代を含み一年で一〇〇〇〇円。

B会員・定期コンサート・シリーズ及びそれ以外の催しのお知らせ、機関誌「邦楽現代」、広報誌「邦楽現代ニュース号」の無料進呈。会費は一年二〇〇〇円。

申し込み方法――(1)各演奏会場で。
(2)郵便振替＝振替番号、東京〇〇―23659日本音楽集団宛。友の会入会希望と明記。
(3)銀行振込＝東京銀行渋谷支店普通預金030―074523日本音楽集団友の会宛。住所、氏名、電話、会費を銀行振込したことを明記して別便にて事務局へ郵送。
(4)現金書留＝住所、氏名、電話を明記し、会費を添えて日本音楽集団へ。

日本音楽集団 原宿教室 募集中

日
月
火
水
木
金
土
箏
琴
琴
琴

露秋銘 尺八

西田露秋

〒794 今治市新谷新田甲798
電話 0898-48-1097・1257

琴の座
胴の座
胴掛ゴム
あすか琴台（高低両用）
本鹿皮口前・尾布（セット）

全国有名デパート
楽器店にて
お求め下さい

琴の座／実用新案登録第968205号
胴の座／実用新案登録第968204号
あすか琴台／実用新案登録第143861号

新作品

万葉箏

新発売
大好評!!
奏者の手によって
調絃が自由自在

3つの特長

■ **二段式竜角**
低音部一の絃～四の絃迄の竜角を下げ絃の長さを長くすることにより余韻の良い低音とする。

■ **特許申請中糸締機**
締機のネジを二重にし、さらに内部に金属板をはめ込み、ゆるみをなくした上、余韻を良くするという二重効果。

■ **良質の材料**
竜角はすべて紅木材を使用。あくまで音色の良さを、ねらう。甲長は会津桐を使用。

発売元

株式会社 **村松屋**

東京都練馬区栄町37 サンハイツエコダ202　電話03—992—7506
富山営業所　電話0766—25—6330

箏

オリジナル立奏台

三絃

十七絃
十八絃

一見不必要と思われる細かな点にまで、改良と創造を重ねてみました。高い完成度を誇る低音楽器の最高級品

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和樂器店

中島　隆

東京都目黒区碑文谷2丁目19-15 TEL 03(792)8481

日本の音、その磨きぬかれたひびき

蝴蝶

コチョウ

新発売

◇みさと尺八（山川直春）
胴目、色白、オニギリ型管尻、コロガラない
標準価格　1.6、1.8尺　極　19,500円
〃　合竹 39,000円

◇みさと笛（ドレミ調正律管）七孔、八孔
（山川直春）
標準価格　B♭（六本調子）
極　10,000円
合竹 15,000円

◇みやた尺八（七孔尺八専用）
（宮田耕八郎）
標準価格　1.6、1.8尺
極　19,500円
合竹 39,000円

◇琴風調しの笛
（ドレミ調正律管）六孔、七孔
（石高琴風）
標準価格 B♭（六本調子）
極　10,000円
合竹 15,000円

銘木尺八

コチョウ

㈱ワダ楽器

〒939-18 富山県東砺波郡城端町城末451
TEL（07636）2-2348・2-2221

※お求めは
有名デパート・和洋楽器店へお願いします。

●新製品につきましては、販売者のない様、製作に全力を傾けて参りますが、お待ちいただかなければならない品もありますので何卒御了承下さい。

こころにひびく落合の和楽器

琴　・・・一絃から二十絃まで・・・

三絃　・・・胡弓から義太夫まで・・・

尺八

各種笛・各種鼓・琵琶
象牙製品　ローン取扱
特別注文承ります

八十余年の伝統に生きる瑞音をお確かめ下さい

キクヤ

創業明治32年 **落合邦楽**

TEL　03・981・7664

〒170 東京都豊島区池袋本町4・25・16（東上線北池袋駅下車3分）

二十絃箏ヨーロッパ・リサイタル・ツアー

ヨーロッパで考えたこと

野坂恵子

六月二十日から七月二十七日まで二十絃箏一面を携えてヨーロッパを旅してきました。今回は三木稔、琴光堂の中島隆両氏に同行を願い一行三名の旅でしたが、二週間後にオランダの箏を弾く青年、ロードリック・デュ・ムンク氏が現地で加わり最後まで行動を共にしてくれたので四名といった方が正しいかも知れません。その四名で車を一台借り、四千キロのドライヴをしながらヨーロッパの地を、歴史を、人々を、今までの旅よりは深く肌で感じてきたと思っています。今回の旅は私にとって十三年二十絃箏を弾いてきた総決算の意味もあり、その分考えることも多く、得ることも多い旅でした。以下そのいくつかをご報告してみます。

☆ THEATRE DE L'ESPRIT FRAPPEUR

ベルギーの首都ブラッセルの、ちょうど〝ジャンジャン〟のような劇場で二木作品を弾く三夜連続のリサイタルが開催されました。〈乱れ〉〈サラバンド〉〈東から〉〈まぼろしの米〉〈箏譜詩集第二集〉といったプログラムでしたが、〈まぼろしの米〉の仏語訳をカルロス・ドゥ・アギーレ・ルーゴ氏　メキシコの貴族出身で演劇の脚本を書いたり、企画をする自由人――が作り、劇場主のアルベール・アンドレ・ルールー氏が私と共演、六月二十三日から三晩、仏語の美しい世界を楽しみました。彼は俳優の経験もあり、リハーサルで私が参ってしまうほど何回も真剣勝負をさせられました。働くことが大好きで、三日ヴァカンスがあったら頭が変になると公言する創造的な良い仕事を十七年間続けてきた人です。彼は私たちの仕事にも理解を示し、今後共に仕事のできる一人です。遠く離れた、しかも古雅なこの地にも同じことを考えている人間がいる。嬉しい出会いでした。一方カルロス氏も人生を楽しみつつ自分の計路をはっきり持っている優雅な人で彼は三木氏の〈竜田の曲〉を熱愛しており、この曲で台本を書き、それはすでに悲劇と決まっているとのことですが、男女二人の俳優と私の箏で一晩の演し物を考えたい、初演はまず日本で、そしてブラッセル、パリ、ロスアンジェルスで実現させよう、と夢は果てしなく広がってきています。実は劇場は今は地下を掘り下げる工事中で、戦争中軍の司令部になったというレジデンス・パラスという大きな建物の一部屋を年内代りに使っていたのでした。ここの聴衆は若い人が多く、終演後ロビーに出るとワインコーナーがあり、そこで「センシティブ、ポエティック、エモーショナル……」といろいろな言葉をいただきました。私たちの仕事に対して理解と共感を示して下さる言葉もいくつかきくことができました。

☆ 21 STRING KOTO RECITAL ?!

六月二十八日から三日間、ゲヴァントハウス二百年祭の最後の行事として新ゲヴァントハウスの大ホールで私のリサイタルが持たれたことは、昨年の〈急の曲〉の成功によるものと嬉しく思っています。あわせて四千人の聴衆の前で弾きましたが、曲目は三日間同一プログラムで〈乱れ〉と〈竜田の曲〉の独奏の他、三木作品の二重奏曲――チェロとの〈しおさい〉（初演）、フルートとの〈ひなぶり〉、ヴァイオリンとの〈白爆〉――でした。さすが共演者は素晴らしく（ゲヴァントハウスオーケストラのソリストたち）、大ホールを使っての三回のリハーサルは充実の度を増す一方で、彼らの出す説得力ある磨かれた西洋の音をききつつ、私も日本の音を、自分の感性を出せたことは幸わせでした。西洋の楽器と対しつつ西洋の聴衆の前で音を出す、その時気張ったり固くなったら音もそうなってしまう。何事もすべてそうですが、相手を信用して共に音楽する心を大切に、誠意をもって事に当るしかない。その上に築れてくる自分たちのものを聴衆は敏感に感じてくれるものなんだと再認識したものです。

三晩共ここの総監督のクルト・マズア夫妻が最前列できいて下さり、知子夫人の箏の説明で始まった演奏会でした。舞台で着物で握手をした、とマズア氏が知子さんを叱り、私も一緒に叱られました。マズア氏が各民族の文化に対して持っておられる貴重な考えを教えていただいたとありがたく思っています。ここではプログラムに MUSIK FÜR 21 SAITIG KOTO と書いてあり、「二十絃じゃないから」と担当者からいわれ、なるほどドイツ人らしいなァと思いました。アンコールはバッハの〈サラバンド〉と三木氏の〈芽生え〉でしたが、不思議なことにバッハがそれらしく弾けるのです。なぜなのか？　マズア氏に最後の晩私のバッハについて何かご意見を、とお願いしたら「テンポをいつもきちんと保つと良い、余りヴァリエイション風にしないで。ある時ヴィブラートがいらないと思った。主音に近い装飾音は余り長くない方が良い。その他は全て良い、あれだけ間を持てることは凄い」と答えて下さいました。もっともっと大きな音楽を弾いていいんだ、と心までのびのびと広がりました。こちらのホールは本当に良く響きます。ですから自然に穏やかにたっぷり音楽をするようになっていくのでしょう。東ベルリンに住むユルゲン・ブトゥケヴィッツ氏（昨年ゲヴァントハウスから委嘱を受け、東山魁夷の画の印象から〈告白〉という曲を書いた作曲家）が私に「ディメンジョネン・ファンタジー・フュア・コ

トソロ」という作品を現地で下さったことをご報告しておきます。

☆ドレスデンのヒッピーハウスと強制収容所ブッヘンヴァルトのこと

劇場の支配人自らの出迎えを受け、汽車でドレスデンに。若い人むけのコンサートは、強い反応があり、目を輝やかせて聴いてくれた人たちが忘れられません。この地は第二次世界大戦で集中攻撃を受け、大打撃を受けた当時の建物が今だに残っており、教会に行けば一夜のうちに全て崩壊した当時の生々しい写真があり、そういうものが目下再建中のオペラハウスなどと共存しています。白夜の空に浮かぶ十字架教会の塔も美しく、ドレスデンは美しい街です。

今年の一月から沖縄で演奏する機会が何度かあり、青い海に囲まれた島を訪れる度にいろいろと考えさせられるようになってきました。思えば日本で唯一の戦場体験を持った島、小さな島であるが故にどこにも逃げられずに追いつめられて米軍艦の浮上している摩文仁の丘で、その他の場所で自害していった多くの人々、その逸話は何度あっても書きつくせるものではないでしょう。ちょうど沖縄出身の写真家石川文洋氏の本「カンボジア大虐殺」「アンコールワット写真集」などを持っていった私は彼の写真と文章に毎晩出会うことになり、そんな訳で今回のツアーのもう一つの大きなテーマは戦争とは？ということになったのでした。未明から大雨の降る七月四日、第二次世界大戦中に強制収容所だったブッヘンヴァルトを尋ねました。ゲーテ、シラー、リストその他多くの文化人たちが生き、文化の中心地であったワイマールからバスで二十分、風の吹き抜ける丘の上にそれはありました。行きたい！と切望して行った所でしたが受けたショックは相当なものでした。……頭を固定され、小さな穴から後頭部を銃殺されるタイル張りの部屋、ガス室、生体解剖室、メス、ピンセット、注射器、ノコギリ、一列に並ぶ死体焼却炉、人の皮膚で作ったスタンドや傘、乾燥させた生首、切り取られた毛髪の山、靴の山、死体が折り重なって並ぶ所で暗なたぼっこをする収容者たちの写真、全員を集めた中で行なわれている首つりの刑の写真……、ここでは三十二ケ国からの反ファシスト芸術家、宗教家、ユダヤ人等々が集められ、最年少は四歳の男の子だったとか。一九三七年七月から一九四五年三月までに[illegible]名が収容され、[illegible]名が帰らぬ人となりました。これを保存し忘れまい、とする彼等の態度には強くうたれる私です。

ゲヴァントハウス大ホールでリハーサル中の，左より
野坂，三木，カール・ハインツ・バッシン

前夜、ノイマン氏の指揮するチェコの作曲家マルティヌーの「リディツェ村に捧げる追悼」をきく機会がありました。この曲は、プラハで暗殺された占領軍司令官ハイドリヒに対する報復として、ナチスが行った残虐な行為を知って書かれたシンフォニーです。プラハ西北西の小村リディツェは焼き払われ、約二百人の男子を虐殺、婦女子約三百人を強制収容所に送り村を地図の上から完全に抹殺した事件でした。この間のパレスチナ難民の虐殺もそうですが、このようなことが未来永劫起きない事を願います。

その夜、全てがオーバーラップして少少興奮気味の私は次のようなメモを残しています。「それぞれの歴史、文化、生活になじんだ今後の方針があるはずだ。いつの世も真理を追い求めた仕事が一番尊いし残っていく。キリスト、バッハ、ベートーヴェン、ガリレオ、アインシュタイン……私にとってそれは神を求めることだ。一途に求め、今を真剣に生きることだ」と。

☆バラモス音楽祭

紙面に限りがあるのでアムステルダムの二回の演奏会は省略させていただくが、文化庁長官や名士たちの集まられたお城でのコンサート、日本人の子供たち向けに企画されたコンサートであったことをご報告しておきます。

初めての地、スペインのバラモスは、海に面した清潔なホテルの居心地の良さと、食事のおいしさで抜群の印象があります。音楽監督の鈴木一郎氏が二回のコンサートを作っていて下さり、彼のギターソロ（前半）と私のソロで〈乱れ〉〈サラバンド〉〈芽生え〉〈華やぎ〉〈物云舞〉（伊福部昭作曲）、そして〈亀田の曲〉、もう一回は前回の〈乱れ〉〈サラバンド〉以外の同一プログラムで、ラファエル・ファイマ・トリオの方たちによるものでした。いずれもアンコールに三木氏の編曲によるスペイン民謡の〈鳥のうた〉を演奏しましたが、この曲は私の部屋に筝をききにこられた九十歳の高名な作曲家フェデリコ・モンポウ夫妻との暖かい交流を経て、というよりも教えを受けて新しい生命を得ることができました。子守唄をうたうように私に歌って下さった夫人の端正な容姿と深い眼差しは日本人の母のイメージそのものだったのです。

団員、及び団員関係のグループの動向

□今秋リサイタルを行った団員からの一言

田嶋直士（尺八、10月19日）

一回目のリサイタルは必死でしたが、今回は楽器を通して充分表現でき、手応えもありました。

白根きぬ子（箏、10月20日）

委嘱はせずに本当に私の好きな曲を選んで弾きました。お客さまにも聴き慣れた曲、愛着のある曲だったので反応はよく、選曲が大切だなと思いました。

山田美喜子（琴琶、10月22日）

他の楽器と違い、いつも全曲委嘱初演ということで苦しみます。逆に新しい曲に挑戦する気持は格別の喜びでもあります。

半田淳子（琵琶、10月25日）

琵琶という、あまり知られていない楽器を多くの人に聴いていただけて、とても嬉しく思いました。

三橋貴風（尺八、11月1日）

一回目のリサイタルからちょうど二年目。じっくり充電し自然にリサイタルをやりたい時期に来ていたので、自分としては満足したコンサートができました。

□これからリサイタルを行う団員から一言

野坂恵子（第十一回箏リサイタル（12月7日・火、日経ホール、詳細は表3）

今回は二十絃箏で、沖縄も含めた日本の四季を歌えればと思っています。三善晃さん、上地昇さんにお願いした曲が楽しみです。

内藤洋子・久子（箏ジョイント・リサイタル（4月22日・金、岡山文化センター）

故郷岡山の人たちからは今までも暖かく励まされてきたので、一つの区切りと思い、やることにしました。曲目は〈五段砧〉〈ひなぶり〉（三木作曲）〈屋島〉が決まっています。

□**田原順子、第十九回琵琶楽コンクール第一位獲得**

琵琶の田原順子が本年九月に行われた日本琵琶楽協会主催の、第十九回琵琶楽コンクールで第一位を獲得し、文部大臣奨励賞、NHK会長賞、琵琶楽協会賞、社団賞を受賞した。演奏した曲は〈船弁慶〉。「紙一重の差で受賞できたと思います。やはりうれしいです。」

□**胡弓の畦地慶司、文化庁芸術課在外派遣員として訪韓、第十七回宮城会コンクール作曲部門第一位受賞**

畦地は本年九月から十一月までの三カ月間、ソウル大学音楽大学校東洋研究所で勉強のため訪韓した。テーマは「韓国の楽琴及び伝統音楽の理論と実際について」。機会があれば本誌でもその成果の報告を掲載したい。

又、畦地は胡弓と地歌三味線のための二重奏曲「阿呍」で、第十七回宮城会コンクール作曲部門第一位を獲得。平井康三郎氏に「古典として残る資質を完璧に備えた名作」と激賞された。

レコード新譜案内

□**月の光／三橋貴風と尺八ゾリステンJr.**

ポリドール・レコード23CX3088

三橋と竹井誠、米澤浩の三名がストリングスと共に演奏。月の光（ドビッシー）、亡き王女のためのパヴァーヌ（ラヴェル）、真珠採りのロマンス（ビゼー）他九曲。

一九八二年度地方公演（文化庁助成）・その二

新潟　十二月四日（土）　新潟市公会堂
上越　十二月五日（日）　上越文化会館
富山　十二月六日（月）　富山県教育文化会館
福井　十二月九日（木）　福井市文化会館

開演＝午後六時半（上越のみ午後二時）
入場料＝前売二三〇〇円、当日売二五〇〇円
学生（高校生以下）一八〇〇円　主催＝日本音楽集団・現代邦楽協議会

曲目＝前奏曲――「古代舞曲によるパラフレーズ」より（三木稔作曲）／ディヴェルティメント（佐藤敬直作曲）／大津絵幻想（長沢勝俊作曲）　以上各地共通。風景（長沢作曲、新潟・上越）、曲（三木作曲、新潟・上越）、秋の曲（三木作曲、新潟・上越）、キビタキの森（宮田耕八朗作曲、富山・福井）

参加者＝笛＝藤崎東樹／尺八＝宮田耕八朗（富山・福井、〈キビタキの森〉二重奏に出演）・坂田誠山（新潟・上越、〈秋の曲〉二重奏に出演）・福田輝久・田嶋直士（福井）・竹井誠／胡弓＝畦地慶司／細棹三味線＝野口美恵子／太棹三味線＝坂井敏子／琵琶＝田原順子

ほうげん抄

キミは長〇を見たか

キミは長島を見たか。あの四連続三振のデビューを、「ことごとくが場外へ流星のごとく消えた」そう快な一試合三ホーマーを、一塁ベース踏み忘れのまぼろしの二十八号を、そして天覧試合の劇的なホームランを。

キミは長沢を聴いたか。あの「子供のための組曲」を、組曲「人形風土記」を、「萌春」を、そして「大津絵幻想」を。

キミは長島を見たか。敬遠のくそボールさえ打ち込む闘志を、シャッとグラブを出してシャッと球をさばく華麗な守備を。グランドに燃える「背番号3」を見たか。

キミは長沢を聴いたか。常に第一拍から始まる明快な切り出しを、シンコペーションの華麗なるオスティナートを。舞台芸術に燃える五十九歳の音楽を。

キミは長島を見たか。昭和四十九年の引退を、「長島のいない巨人軍」を率いて闘う「90番」を、あの屈辱の解任劇を。

キミは長沢を聴いたか。強者揃いの日本音楽集団を率いて闘う長

／箏・十七絃＝吉村七重（富山・福井、ハキビタキの森）／二重奏に出演）・宮越圭子（新潟・上越、〈秋の曲〉／二重奏に出演）・木村玲子・内藤洋子／打楽器＝藤舎成敏・高橋明邦／指揮＝田村拓男／代表＝長沢勝俊

第八回関西定期演奏会――芸術小劇場66

十二月十日（金）午後六時半開演、京都府立文化芸術会館

入場料・主催＝前掲両方公演その二に同じ

曲目＝ディヴェルティメント／阿転（畦地梅司作曲）／コンチェルト・レクイエム（鎮魂協奏曲）（三木作曲）／キビタキの森／大津絵幻想

参加者＝箏＝藤崎重康／尺八＝宮田耕八朗（〈キビタキの森〉二重奏に出演）・福田輝久・田嶋直士・竹井誠／胡弓＝畦地梅司（〈阿転〉二重奏に出演）／細棹三味線＝野口美恵子／太棹三味線＝坂井敏子（〈阿転〉二重奏に出演）／琴笛＝田恵子／箏・十七絃＝野坂恵子（〈コンチェルト・レクイエム〉独奏二十絃箏に出演）・吉村七重（〈キビタキの森〉二重奏に出演）・木村玲子・内藤洋子／打楽器＝藤舎成敏・高橋明邦／指揮＝田村拓男・稲田康／代表＝長沢勝俊

尺八のハーモニーがいざなう
クラシックの名旋律

月の光

三橋貴風と尺八ソリステンJr.

●月の光～「ベルガマスク組曲」より●時の踊り～オペラ「ラ・ジョコンダ」より●亡き王女のためのパヴァーヌ●真珠採りのロマンス～オペラ「真珠採り」より●ホフマンの舟唄～オペラ「ホフマン物語」より●恋のアランフェス～「アランフェス協奏曲」より●芦笛の踊り～バレエ音楽「くるみ割人形」より●ソルヴェーグの歌～「ペール・ギュント」より●ラルゴ～「交響曲第9番（新世界より）」第2楽章●イタリア～「交響曲第4番（イタリア）」第2楽章●パヴァーヌ●ムーン・ライト・ソナタ～「ピアノ・ソナタ第14番第1楽章」より

絶賛発売中
●23MX 3085
□23CX 3088
各¥2,300

ポリドールレコード

お琴・三味線・尺八・各流舞扇

和楽器

上野楽器店

◆本店　札幌市中央区南5条西2丁目上野ビル1F　TEL011-561-0416
◆東急店　札幌市中央区北4条西2丁目5-ほろ東急7FTEL011-232-2504
◆そごう店　札幌市中央区北5条西2丁目札幌そごう7F　TEL011-213-2341

沢の、心優しい音楽を。

キミは長島を見たか。人々は長島を見るために球場へおしかけた。三振しても感動的な長島は人々の夢であった。人々は長島茂雄を語るとき、この天才と同時代を生きたことの幸福を覚えるのだ。

キミは長沢を聴いたか。人々は長沢を聴くために会場へおしかける。長沢の音楽は愛である。人々は長沢勝俊を語るとき、このヒューマンな芸術家と同時代を生きている実感に、忘れかけていた勇気を奮い立たせるのだ。

長島はグランドから去った。長島と共に生き、長島のいた巨人軍を愛してきた人々の、現在の夢は希望は長沢のいる日本音楽集団なのだ。本人たちは気付いていないにしても、一度でもその音楽を耳にした人ならばわかるはずだ。決して派手ではないが地に足をつけた姿には、信じたい何かがあるはずだ。

来年、長沢六十歳。秋には長沢作品特集を組む。再来年、日本音楽集団二十周年。二十一世紀へ向けて駆け抜ける。（黒髪　望）

※参考資料＝岩川隆著「キミは長島を見たか」（集英社版）

はなげん抄　邦(楽)現(代)抄　放言抄　方言抄　はなげん抄　邦(楽)現(代)抄　放言抄　方言抄　はなげん抄　邦(楽)現(代)抄

日本音楽集団及び団員等の国内における行事（太字は集団主催。録音や学校公演等は省略します）

――十月、十一月に行われた催し――

十月二日（土）　神奈川県芸術祭オープニング　神奈川県民ホール（小）
九日（土）　芸術祭コンサート「鳳凰三連」三木稔作曲（昭和五十七年度第三十七回文化庁芸術祭主催公演――東西楽器群の融合）（P.14）　草月会館ホール
十六日（土）　恋ヶ窪ファミリーコンサートに出演　ゆうぽうと簡易保険ホール
十八日（月）～二十三日（土）　**第九次海外公演として香港における第七回アジア芸術祭に出演（P.9）**　国分寺市立第九小学校音楽室
十九日（火）　田嶋直士第二回尺八リサイタル　青山タワー・ホール
二十日（水）　白根きぬ子箏リサイタル　青山タワー・ホール
二十二日（金）　山田美喜子第三回琵琶リサイタル　朝日生命ホール
二十五日（月）　半田淳子第一回琵琶リサイタル　青山タワー・ホール
十一月一日（月）　三橋貴風第二回尺八リサイタル　芝ABC会館ホール
十日（水）　霜月の会――野坂恵子二十絃箏エコール第七回演奏会　駒場エミナース
三十日（火）　吉村、藤田、内藤出演　第七十四回定期演奏会――詩と音楽・秋を語う（P.16）　**青山タワー・ホール**

この期間に初演された団員の邦楽器に関わる作品――長沢時俊作曲〈国東の賦――琵琶と地唄二絃と十七絃による〉〈香――かぐわしき琵琶の音によせて〉〈北国雪景〉　三木稔作曲〈カシオペア21――二十絃五重奏のための〉〈わらべ歌風歌楽「月の兎」〉

――十二月から一九八三年四月までに行われる催しの予定――

十二月　一九八二年度地方公演（文化庁助成）・その二――四日（土）新潟／新潟市公会堂、五日（日）上越／上越文化会館、六日（月）富山／富山県教育文化会館、九日（木）福井／福井市文化会館（P.24）
七日（火）　野坂恵子第十一回箏リサイタル（表3）　日経ホール
十日（金）　第八回関西定期演奏会（P.24）　京都府立文化芸術会館
二十一日（火）　奥平八重子リサイタルで、三木の笙とピアノのための〈結（ゆい）〉初演　東京文化会館小ホール

一九八三年
一月十日（月）、十一日（火）　野坂恵子二十絃箏エコール・イン・ジャンジャン　渋谷ジャンジャン
二十一日（金）　「日本の作曲家'83・出版作品演奏会X――邦楽器のタベ」に集団のメンバー出演（P.8）　草月会館ホール
二十五日（火）　第七十五回定期演奏会――ソロとコンチェルトのタベ・その二（P.16）　**青山タワー・ホール**
二十八日（金）、二十九日（土）野坂恵子二十絃箏の世界（この後三月二十五日、二十六日）　渋谷ジャンジャン
二月十日（木）　「東京交響楽団現代日本音楽のタベ'6――伊福部昭の協奏四題」で野坂が〈二十絃箏とオーケストラのためのエグログ〉を協演　ゆうぽうと簡易保険ホール
一九八二年度地方公演（文化庁助成）・その三――十七日（木）藤沢／藤沢市民会館、十八日（金）富士／富士文化センター、二十六日（土）いわき／いわき市平市民会館、二十七日（日）水戸／水戸市民会館（P.24）
二十日（日）　日本音楽集団演奏会　神戸文化ホール
三月四日（金）～十三日（日）　中国（北京、上海）で第十次海外公演を行う。
十一日（金）、十二日（土）　スペース桐里'83で三橋貴風尺八演奏会　スペース・桐里
十六日（水）　日本音楽集団研究団員コンサート　豊島区民センター
四月二十二日（金）　内藤洋子・久子箏ジョイント・リサイタル　岡山文化ホール
二十四日（日）　名古屋グリーン・エコーが三木の一夜を要する合唱劇〈弥勒と浄瑠璃姫〉を初演。集団が器楽を担当
三十日（土）　第六回日本音楽協会合奏フェスティバル　尼崎アルカイック・ホール

なお、集団の一九八三年度前期の主な予定は次の通りです。
五月十六日（月）　第七十六回定期演奏会　朝日生命ホール
六月十七日（金）　第七十七回定期演奏会　青山タワー・ホール
七月十二日（火）　第七十八回定期演奏会　青山タワー・ホール
七月　フィンランド、スウェーデンなどへ第十一次海外公演が予定されている。

☆日本音楽集団関係以外のコンサートの広告も受け付けています。又、掲載分はこの予定表にも記載いたします。
☆予定表内、カッコ内のページは広告及び詳細が掲載されている箇所です。
☆日本音楽集団は東京音楽大学民族音楽研究所の協力団体で、同大学の好意によりC－四〇三教室を練習場として使用しております。練習場の電話は、九八三－八〇九六（直通）です。

日本の音……
三味線
三味線／胡弓　製造・卸・販売
有限会社
帝（みかど）
浅草店　〒一一一　台東区浅草一－三一－八（公会堂通り）
☎〇三（八四五）四一三三
本店　〒一一三　墨田区太平一－二三－一
☎〇三（六二四）三五〇三・（六二五）九三八二

和楽器専門店
御琴　三絃　尺八　並びに　附属品
諸先生作曲練習本取揃　別註楽器製作承ります
クレジット販売も致しております
老舗
金善（かなぜん）
京・東山区大和田大路四条下ル二丁目
TEL（〇七五）五六一－二九四〇・五四一－一〇三九

琴・三絃一式
株式会社
琴の長澤
京都・中京区四条旧御前通り上ル
TEL　〇七五・八二一・一三四五

日本音楽集団 Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

代表　長沢　勝俊
音楽監督　三木　稔
首席独奏者　野坂　恵子
宮田耕八朗
常任指揮者　田村　拓男

事務局長　奈良　義意
事務局　霜島　素子（文芸）
宮川　正之（経理）
石崎　信宏（渉外）
会計監査　芹沢　英雄

運営委員長　坂田　誠山
（副代表）

マネージメント協力（国内及び国外）
株式会社ジャパン・アーツ

団員連名

〈幹部団員〉

宮田耕八朗（尺八・笛）＊
坂井　敏子（箏・三味線・胡弓）
白根きぬ子（箏）
宮本　幸子（箏）
野坂　恵子（箏）
田村　拓男（指揮・打楽器）＊
長沢　勝俊（作曲）
三木　稔（作曲）

〈正団員〉

望月　太八（笛）
西川　忠平（笛）
坂田　誠山（尺八）＊
三橋　貴風（尺八）
福田　輝久（尺八）
田嶋　直士（尺八）
藤崎　秋夜（尺八・笛）＊
畦地　繁司（胡弓・笛）＊
平田　淳子（琵琶）
田原　順子（琵琶）
古村　七重（箏）
佐原はるえ（箏・三味線）＊
宮越　圭子（箏）
木村　玲子（箏）
尾崎　太一（打楽器）＊
藤倉　成敏（打楽器）＊
堅田　啓輝（打楽器）＊
高橋　明邦（打楽器・指揮）＊
黒坂　昇（打楽器）
中島　隆（楽器係）

〈準団員〉

竹井　誠（尺八・笛）
米澤　浩（尺八）
太田　幸子（三味線）
義田　司郎（三味線）
加藤　洋（三味線）
本東頃志子（箏）
内藤　洋子（箏）
熊沢栄利子（箏）
滝田美智子（箏）
松本　和美（箏）
田嶋恵美子（箏）
佐藤　里美（箏）
小林恵美子（箏）
稲田　康（指揮）
内田とも子（作曲）

〈研究団員〉

出口　裕子（箏）
水谷　雅康（尺八）
大畠茉穂子（箏）
安倍　久恵（打楽器）
素川　欣也（尺八）
山本　哲子（三味線）
山田まゆ美（琵琶）
幾山百合子（箏）
川村　公子（箏）
岡田　寿子（箏）
内藤　久子（箏）
石川　恵弘（箏）
荒野けい子（箏）
宮川　正之（作曲）
水川　寿也（尺八）
田中悠美子（三味線）
島崎　春美（箏）
佐藤由香里（箏）

名誉団員

山田美喜子

協力団員

伊藤　恕一

地方在住団員

塚本　早苗

印は本年度運営委員
昭和五十七年度十一月現在

〈賛助会員〉

（有）琴光堂和楽器店
（松本・諏訪・東京）
滝沢　修
野坂　操寿
鶴田　錦史
三木　卓雄
渡辺　精一
高瀬　卓郎
霜鳥　邦子
平田多真美
古川羽衣山
丹野井宏寿
青木　誠
秋元　信史
芝谷　俊治
稲垣　隆史
小田切清光
川崎　祥悦
菊地　博子
楠　知子
鞍掛　昭二
鯉沼　広行
杉浦　弘和
砂崎　知子
戸井　昌造
藤倉　民悦
仲俣申喜男
矢崎　明子
中村　八大
野口　鐵
野口美恵子
佐藤　敏直
三　祐靖
清水　義紀
芹沢　英雄
高野　文子
田中　利光
広瀬　量平
鳳声　晴山
星　旭
増田　睦実
元橋　康男
柳家小三治
横山　勝也
ディヴィッド・ロープ
ディヴィッド・ヒューズ
ヘンリー・バーネット
ラニィ・シェルダン
王　燕榕

〈団友〉

〈維持会友〉

AOIミュージック株式会社
株式会社西友ストア
株式会社豊島園
株式会社ノサカ
西武建設株式会社
西武鉄道株式会社
西武百貨店
誠和音楽
菱電商事株式会社
宮園自動車
宮園オート
青柳　孝年
赤木　明
朝吹　英一
井阪　紘
稲木　一
榎本　容三
遠藤　持一
岡　甘三
金子　博美
家根原光子
亀田　和保
河野　義博
近藤　栄一
國持　光生
高橋　克己
武江　利博
田村　鎮男
寺島　孝之
内藤　国枝
永根　玲子
奈良　英雄
根志　彰
新倉　鶴子
野坂　純一
旗野　恵美
早川佐和子
原　順一郎
柳川　創造
福田　洋一
星　光和
縛　毬
松井　翠
松原　剛
柳田　正治
吉岡　祐子
頼木美保子

日本音楽協会

協会世話人

長沢勝俊（代表）・三木稔・野坂恵子・宮田耕八朗・田村拓男・山田美喜子・坂井敏子・坂田誠山・田鳴直士・奈良義寛・芹沢美雄

構成団体

日本音楽集団
野坂恵子二十絃箏エコール
ぐるーぷ・だだ
尺八ゾリスチン
関西音楽集団
「星組」合奏団（東京）
合奏団「たあく」（東京）
合奏団「箏」（関西）
合奏団「箏」（仙台）
合奏団「グループ・みずほ」（名古屋）
Nippania Hawaii Ensemble（ハワイ）

＊以上六団体は日本音楽協会合奏団を構成します。

協会支部

東京支部　日本音楽集団事務所携い
関西支部　田鳴直士　TEL
水戸支部　斉藤幸山　TEL
長野支部　佐藤幸宇山　TEL
山梨支部　郷晃　TEL
長崎支部　牧山雅楽部　TEL
熊本支部　古川羽衣山　TEL
秋田支部　野口裕子　TEL

邦楽の会つばら事務局）

野坂恵子第十一回箏リサイタル
二十絃箏でうたう日本の四季

○春―箏譜詩集II／三木稔作曲　○夏―南風楽土（委嘱初演）／上地昇作曲
○秋―秋の曲／三木稔作曲　○冬―Du blanc au noir 変転（委嘱初演）／三善晃作曲
客演―本間正史（オーボエ）
主催―日経新聞社　制作協力―ジャパン・アーツ
■一九八二年十二月七日（火）七時開演　■場所―日経ホール
■入場料―指定（電話予約のみ）三〇〇〇円　自由二五〇〇円
中・高生自由席二〇〇〇円　都内各プレイガイドにて前売中
■お問い合せ・電話予約―ジャパン・アーツ五八六―三三九七

カセットアルバム

みずほのうた

大友太郎 vs 滝田美智子
2月5日発売!!

AFSC-1014 ¥2500

イラスト●大塚喜子

彼のフルートを聞いたら
愛の女神も陶然としてしまうわ
ヨーロッパの女性たちは
憧れをこめてつぶやいた
大友太郎――輝くばかりの音色
胸に迫るスケール感……
宮田耕八朗の曲に大変感動した
彼が、心をこめて演奏する
共演するのは
可愛らしい華やかさで
人気の滝田美智子
奏でるは二十絃と十三絃
開けたらキラリ！
このアルバムは宝石箱だ。

曲目

宮田耕八朗　●きびたきの森
　　●雨の水前寺にて
　　●みずほのうた
三木稔　●秋の曲
長沢勝俊　●萌春（ほうしゅん）

2つの顔　宮田耕八朗

(1)大友太郎さん
輝けるフルート
完璧とまでいえる技巧
ベルばらに登場するような
整いまれな好青年――
クラシックでの力はすでに第一級であるが、日本音楽でも、その力を広げ大いに活躍していただきたい人である。プラハの春で特別賞受賞マルク・イルヒェン国際コンクール優勝。

(2)滝田美智子さん
大変恵まれた天分
舞台の上で輝々としていて――
演奏するために生まれてきたような華やぎのある人。
柔軟性に富み将来を大きく期待できる人です。80年パンムジークフェスティバル独奏部門優勝、日本音楽集団所属。

音楽テープ
アフロディーテ
マーク●池田理代子

好評発売中!!
「超絶技巧。宮田耕八朗」
箏●宮本幸子
MOC-1810 ¥2500

問合せ●日本音楽サービス☎03―409―5358

編集後記

特別座談会にもありますような事情により、本号は少々薄手になったものの中味で勝負!!の意気込みで、皆さまにお届けします。又、発行日が二ヵ月近く遅れましたがご容赦下さい。

■ 本誌への関心度は内部事情に反比例して上っています。このような状況下で広告を下さいます方々に心から御礼申し上げます。

■ 本当に不況なのだけれど、なんとなく"不況、不況"と流行りことばのように、ついついつい口に出てしまって、更に落ち込んでもこまります。本号の座談会では、これを一つの区切りとして再出発しようとする、真剣な話し合いがなされました。

■ この秋はずい分と台風や雨の多い季節でした。千葉の方では、蜂が台風をよけて低い所に巣を作ったため、刺される被害が続出したとか。我家のあじさいは十月も半ばというのに、梅雨とまちがえたのか青紫の花をつけていました。

■ "雨降って地固まる"

（霜島）

邦楽現代第十四号
定価四〇〇円
一九八二年十一月三十日発行
発行所　日本音楽集団
東京都渋谷区神宮前6―16―14
小早川ビル
電話〇三―四〇九―五三七四（代）
Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)
Kohayakawa Bldg., 6-16-14 Jingumae,
Shibuya-ku, Tokyo.
発行責任者　三木　稔
編集　霜島素子
印刷　株式会社アジア企画群
印字　けやき印刷
表紙デザイン　及部克人
レイアウト協力　黒沢恭子

「邦楽現代」取扱店―東京と東京近郊―
三越本店・高島屋玉川店、横浜店・東武船橋店・浅草松屋・川崎コミヤ（以上、武田屋楽器店扱い）・琴光堂　諏訪・松本―琴光堂　金沢―関屋楽器　福井―伊与楽器　奈良―中村楽器　京都―金善楽器　岐阜―琴栄楽器　大阪―大阪屋　北海道―上野楽器
直接購読ご希望の方は日本音楽集団へお申し込み下さい。尚、現在一～六号は品切れ、七号から九号は三〇〇円、十号以降四〇〇円、送料は二冊まで二〇〇円、四冊まで二五〇円。継続購読ご希望の方は友の会B会員（詳しくは本誌17ページ参照）になられるとお得です。

●日本音楽サービス扱いのレコードと楽譜●

●出版楽譜

長沢勝俊作品
- ○尺八・箏による「萌春」／400円
- ○箏四重奏曲／600円
- ○詩曲・まゆだまのうた／650円
- ○二つの田園詩／500円
- ○楽しい練習曲集「箏と尺八」初級編／750円
- ○楽しい練習曲集「箏と尺八」中級編／700円

三木稔作品
- ○血群のための形象／500円
- ○箏 譜詩集Ⅰ／300円
- ○弦響・ソネットⅠ／500円
- ○天如・従保の曲・竜田の曲／800円
- ○夕影の詩・箏双奏・雅びのうた／700円
- ○松よ（パート譜は別）／900円＊
- ○千絃の曲／400円＊
- ○箏 譜詩集Ⅱ／1200円＊
- ○尺八のためのソネットⅡ―Ⅴ／1200円＊
- ○序の曲／2500円＊
- ○破の曲／2500円＊
- ○急の曲／4000円＊

●レコード

- ○組曲（人形浄土記）・子供のための組曲　長沢勝俊作品集――2200円R
- ○萌春　長沢勝俊作品集／二つの舞曲・箏四重奏曲・詩曲・萌春――2200円R
- ○まゆだまのうた　長沢勝俊作品集／三味線協奏曲・嘆詩・二つの田園詩・まゆだまのうた――2200円R
- ○緑木によせて　長沢勝俊作品集／春三題・尺八協奏曲・緑木によせて・飛鳥によせる三つのバラード――2200円R
- ○めばえ　三木稔選集Ⅰ／「四季」ダンス・コンセルタントⅠ・芽生え・楽手・夕影の詩・竜田の曲――2500円CA
- ○炎・わ　三木稔選集Ⅱ／炎火・わ――2500円CA
- ○野坂恵子・三木稔「二十絃箏の世界」／破の曲・春琴抄序曲と春鶯囀・白蓮・まぼろしの水・天如・従保・竜田・箏譜詩集Ⅱ・ひなぶり・東から――10000円CA
- ○野坂恵子・二十絃箏の世界Ⅱ／紡ぐ（武満徹一郎）・芽生え（三木）・秋の曲（三木）・ワールズ（マカイ）・グリーン・スリーブス――2500円CA
- ○野坂恵子・二十絃箏の世界Ⅲ（三木稔選集Ⅲ）／詠嘆協奏曲・箏譜詩集Ⅰ・雅やぎ――2500円CA
- ○三木稔作品集Ⅰ／古代舞曲によるバラフレーズ・凸――2000円CO
- ○三木稔作品集Ⅱ／ソネット・箏譜詩集Ⅰ・血群のための形象――2000円CO
- ○三木稔作品集Ⅲ／序の曲・雅びのうた・天如・弦響――2000円CO
- ○三木稔／凸・古代舞曲によるバラフレーズ／1500円CO
- ○雅（みやび）／雅やぎ（三木稔）・小鼓の旋・みだれ・新八千代獅子――2500円CO
- ○GAKU／樹冠（長沢）・炎火（入野義朗）・笛（藤田正典）・プレリュード（新実徳英）――2800円KO
- ○野坂恵子古典箏曲集Ⅰ―Ⅴ／各2000円CO
- ○日本の楽器入門――3000円CO

★上記のレコード・楽譜の販売の仲介をしますのでご希望の方は下記の日本音楽サービスへご連絡下さい。
また、コピー楽譜もお承けしています。
★楽譜の価格の後、無印は全音版、＊印は音楽之友社版。＊はみきねん・コレクション版。レコードの価格の後、RはRVC版、COはコロムビア版、Vはビクター版、GAはカメラータ版です。
★この他にカセットテープもあります。詳細はお問い合わせください。

日本音楽サービス　東京都渋谷区神宮前6―16―14小早川ビル　電話03―409―5358